

## 東京都・新島村合同総合防災訓練に参加しました

10月16日(土)に行われた東京都・新島村合同総合防災訓練にCO災ボのメンバー5名が参加しました。当日は、パネル展示やパソコンでの災害クイズを行い、災害時の工夫やどのように行動すれば良いのか、お知らせしました。

新島のみならず東京の島では、地震、それに伴う津波、火山噴火の危険にさらされています。この訓練をとおして、海に隔てられた島では、島内での自助・共助体制の確立が重要で、自分の命は自分で守る。併せて一致団結し、連携した防災組織を作ることが必要であることが実感できました。

防災頭巾には  
年組・氏名・住所・電話番号  
血液型を書いておきましょう。



東京都生協連のボランティア活動や、CO災ボについてパネルでお知らせしました。



生協の緑茶といわしの蒲焼缶詰を応急救援物資としてこの訓練に供給しました



災害クイズは、老若男女を問わず、高得点でした。小学校で教わったり、10年前のがけ崩れの教訓が活かしているのかな。



### 島内視察編



風光明媚な港の様子。



10年前に崩れた小学校の裏山。現在小学校は資料館のようになっています。訓練当日は煙・起震車体験の会場になりました



新島には空港もありますが、ヘリポートも独立してありました。

東京都と連携して、応急救援物資を配布するCO災ボメンバー。



消防や警視庁などの訓練では、緊張感が伝わり、見学者は真剣に見ていました。低空で停止する技術にへー！



# 行って・見ました! 東京臨海広域防災公園

さる10月26日(火)のコープ災害ボランティアネットワーク(CO災ボ)幹事会開催後、CO災ボの活動に活かすため、体験・学習から災害に対する知識や知恵、自助・共助の心を習得する場である東京臨海広域防災公園を見学しました。組合員活動はもちろん親子でも、自治会や町会単位でも体験・学習をとおして、防災や災害にどう対処するか考えるきっかけとして活用できる施設でした。

## エントランスホール



広々とした1階エントランスホール。ペットボトルで出来た机と椅子があり、防災フードがここで食べられます。



## オペレーションルーム

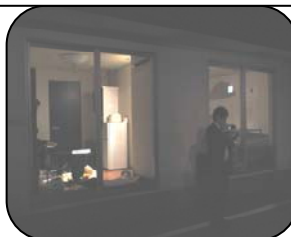


大規模災害時に、広域で甚大な被害に対し、国や地方公共団体が協力して復旧活動を行う拠点として機能するオペレーションルーム。その際は、大勢の人が行き来するので、エントランス、廊下も広くなっています。

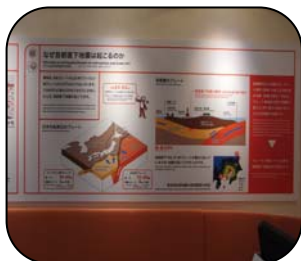
## 防災体験ゾーン



首都直下地震の発災から、組織的な救助活動が行われるまでの72時間をどう生き残るか、避難までの一連の流れを任天堂DSを使って学びました。まずはエレベーター(駅ビル内の想定)に乗り、下降中に震度6の地震が発生。床が振動し、緊急停止します。暗く狭い通路を抜け、被災した街中へ。音響、照明、映像により、被災状況を再現した街の中をDSを使ったクイズに答えて、危険箇所を確認し、安全を確保しながら、避難場所へと進みます。避難場所となっているスペースには、防災倉庫内の備品や簡易トイレの実物、72時間生き残るさまざまな知恵が展示されています。

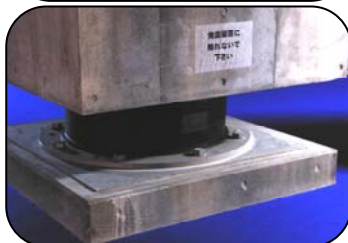


## 防災学習ゾーン



地震が起こるメカニズムや、今後30年以内にM7以上の地震が70%の確立で起こることがパネルで学びました。また、世界の防災用品や、すごろくやカードなどで学ぶ防災ゲームがいろいろ展示してあります。

## 施設を支える免震構造



災害時には、国や地方公共団体との緊急災害対策本部となることから、地震の揺れを吸収する装置が設置され、大地震にも耐えられるような構造になっています。

また、参加者から液状化対策について質問があり、地下20mほどから液状化を防ぐ、地盤改良がされています。

この部分の見学は、団体予約が必要です。

